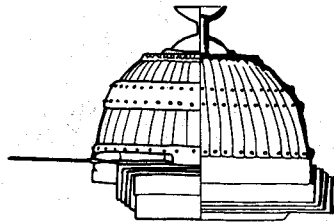


紀 要

第 4 号



1990. 12

財団法人 滋賀県文化財保護協会

4. 墓地からみた弥生社会の変質過程

岩橋隆浩

1. はじめに

弥生時代の墓地に関する研究は現在までにも多数なされている。しかし、それらは墓地そのものよりも、副葬品等の出土遺物を中心に進んできたと言えるであろう。そう言った中で墓地を構成する諸要素を総合的にとらえる研究も進んできた。しかしその研究も個々の墓地または墓制の研究であったと言える。その様な風潮の中で墓地を系統だてて理解しようとする研究は例があるものの、あまりなされていない様に思われる。

墓地の研究において、特に等質的社会である縄文時代と非等質的社会の完成する古墳時代との間に位置する弥生時代の社会を考え地域の比較を行うには、墓地をその様相ごとに分類し、系統だてて考えることが有効であると思われるのである。各墓地を営む集団の個々の様相も、その個々の分析に基づき類別を明らかにし、どの様な社会段階の墓地であることを明示しなければ理解できないであろう。この様な視点から筆者は山陰地方の弥生時代における社会発展過程の復元を試みたことがあるため、同様の方法を用いて新たなフィールドである近江を取り上げてみたい。本稿では土器様相から見て東海・山陰・北陸・畿内の各地域からの影響を色濃く見せ、近年では方形周溝墓地・台状墓と一線を画する様な低墳丘墓の存在が知られるようになってきた湖北地方を取り上げ、その社会発展過程の一端にせまってみたい。

2. 分析原理と分類

まず分析にあたっての基本原則について述べておかねばならないであろう。観察点は、埋葬施設の種別（土壇・木棺・石棺等）・墓壇の時期・副葬品の有無・盛土の有無・頭位（墓壇主軸方向・遺骸のある場合はその状況）の各点である。これらの点により墓地内の群構成の有無やその特徴をとらえ、墓地構成の様相を明確にする。その結果出た各墓地の様相をもとに分類を行ない、その類型がどの様な段階の弥生社会集団にあてはまるか、またその類型がどの様に系統づけられるかという点を“はじめに”で述べた様に、社会の発展過程と照らし合わせたうえで明示する。なお時期区分であるが、前期を前葉・中葉・後葉（Ⅰ様式古・中・新段階期）、中期を前葉・中葉・後葉（Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ様式期）、後期を前葉・中葉・後葉（Ⅴ様式期を3区分）、そして庄内式期を終末期に比定し、前半・後半の2期に区分した。

さて次に分類であるが、墓地の様相というものが決して1つ2つの様相だけを示すものでない事は明白であろう。そこで前述の山陰地方の分析の結果と社会発展過程の理論を考え合わせると、少なくとも9つの様相に分類が可能であると思われる。

a類 高倉洋彰氏の言うところの伯玄社タイプに相当するものである⁽¹⁾。同時期における墓群構成が見られず、その中において他と隔された要素をもつものが見られない。

他地域の例 福岡県春日市伯玄社遺跡等⁽²⁾

b類 同時期における墓群構成が見られず、特別な施設・副葬品をもつ墓が他の一般的な墓と混在している様相を呈する。

他地域の例 鳥取県倉吉市イキス遺跡等

c類 同時期における墓群が見られるが、その他の様相はb類と同じである。

他地域の例 鳥取県羽合町長瀬高浜遺跡・唐津市宇木汲田遺跡⁽³⁾・守山市服部遺跡等

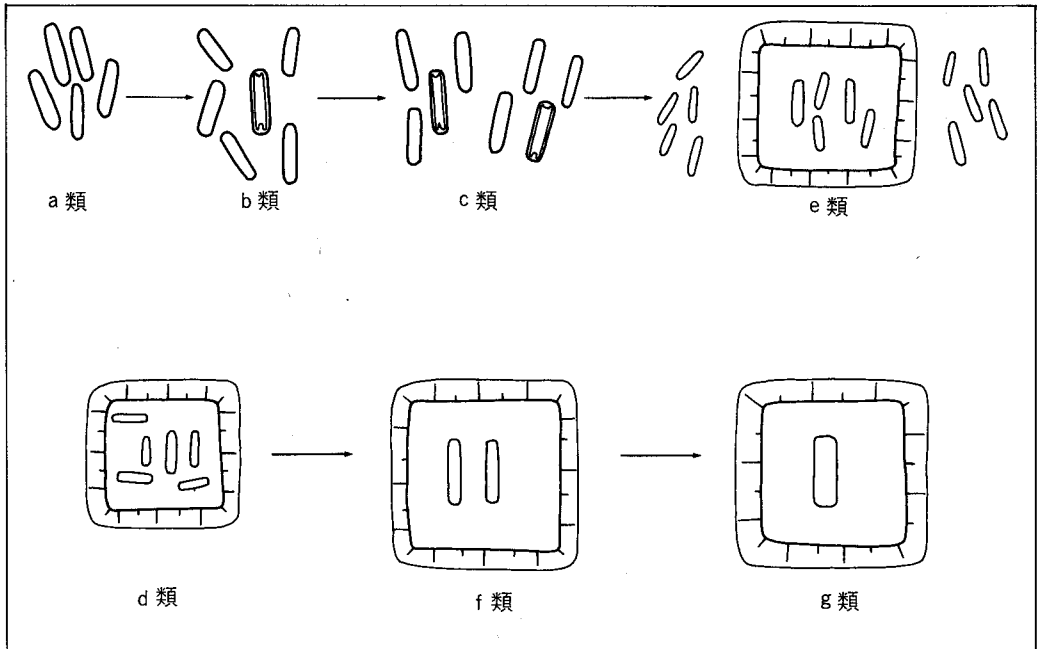
d1類 b・c類において集落一般構成員の墓と隔差の見られる墓が、前者と墓域(立地)を異にして存在し、家族墓、近親者の墓としての様相を呈する。この場合墓地を区画する施設の形態として周溝墓・台状墓・貼石墓・四隅突出型墳墓等の形態をとる。

他地域の例 京都府丹後町大山墳墓群・島根県安来市仲仙寺10号墓等

d2類 d1と同様相を呈するが、同時期にd1類の墓が複数存在するもの。

他地域の例 舞鶴市志高遺跡周溝墓群・松江市友田遺跡1・2・6号貼石墓・東大阪市瓜生堂遺跡周溝墓群等

e類 d1類・d2類の墓が他の一般構成員の墓と溝等の区画で隔てられているものの未だ混在した状況から脱しきれない状況を示す。



第1図 各類型模式図とその変遷(縮尺不同)

他地域の例 岡山県山陽町四辻土壙墓群・島根県安来市長曾土壙墓群・大津市南滋賀遺跡等⁽⁴⁾

f 類 d1類の被葬者の中からさらに抽出された人物の墓で、特定夫婦墓とも言うべき様相を呈する。主体部はおおむね並行して2～3基見られる。

他地域の例 京都府野田川町寺岡遺跡S X56・島根県瑞穂町順庵原1号墓等

g1類 f 類の被葬者の中からさらに1人抽出された人物の墓で、特定個人墓の様相を呈する。主体部は基本的に1基である。

他地域の例 島根県安来市宮山4号墓・倉敷市楯築墳丘墓⁽⁴⁾・福井県原目山1号墓⁽⁵⁾等

g2類 g1類と基本的に同様相を示すが、特定個人が同一墳丘内に3～4世代にわたって造墓することから造墓期間が長期にわたる。

他地域の例 京都府弥栄町坂野丘遺跡

と以上に分類が可能である。

3. 湖北地方の墓地様相

湖北地方で現在発見されている弥生時代墓地の上限は中期前葉のものであるが、前期中葉から長浜平野を中心に集落遺跡（川崎遺跡・十里町遺跡）が見られる。その後湖北各地に遺跡が見られるようになってゆくが、現段階での墓地遺跡の初見は、長浜市越前塚遺跡の方形周溝墓である。同遺跡では中期前葉から古墳時代初頭までの方形周溝墓が62基知られているが、主体部が検出された例は全くない。しかし後期には時期別にある程度の群構成が見られる。中期・終末期においては散在している様子で、墓自体の数が少ない。墓域全体を調査していないが、全項で述べた類型にあてはめると、後期全般では守山市服部遺跡と同様相を思わせるためc類にあてはまるが、中期・終末期においては分類は不可能である。他に中期後葉に長浜市鴨田遺跡・虎姫町五村遺跡等の方形周溝墓群があるが、そのいずれもはっきりした様相はつかめない。

後期になると墓地遺跡の類例も多くなってくる。しかし削平をうけている場合が特に平野部については多く、資料的に使えるものはあまり多くない。その中でも比較的様相のはっきりしたものを挙げると、湖北町丁野遺跡・余呉町黒田長山遺跡・余呉町桜内遺跡・近江町西門寺遺跡がある。まず丁野遺跡から見てゆく。当遺跡は屋根上に位置し後期を中心とした土壙墓34基と方形台状墓1基が検出されており、土壙墓群は主軸方向や立地から見て7つの群とそれ以外のものから構成されている。方形台状墓では主体部は検出されていない。なお台状墓は土壙墓を切って存在している。土壙墓群には立地の規制以外は見られず、副葬品を伴うものも全くないが、組合わせ式箱形木棺を用いたものとそうでないものとに分けられるところから、c類に相当するであろう。台状墓には主体部が検出されていないため、様相ははっきりしないが、土壙墓群の中に台状墓と併存するものがないとすれば、d1類・f類・g1類のどれかに相当する事は間違いのない。しかし類型の流れの中で見るとc類から同集落内墓地でf・g1類に直接変化するのではなく、d1類と考えるのが妥当であろう。

黒田長山遺跡と桜内遺跡は立地が近接しており、その相関関係が指摘されている。出土土器か

ら桜内遺跡周溝墓群を長山遺跡周溝墓群を比較すると前者がやや新しく後期後葉を中心とし、後者が後期中葉を中心としており、屋根上に位置する長山遺跡から麓の桜内遺跡に墓域が移動している事がうかがわれる⁽⁶⁾。両遺跡とも削平のため主体部の残存状況がよくなく断言は出来ないが、長山遺跡の場合は立地・規模・副葬品の有無による規制が、桜内遺跡の場合は立地と規模の点において規制がある。両者とも規制において優勢な墓が他の墓と立地的に少々離れている程度で、大きな目で見れば共同墓地内に優勢な墓が混在している様相である。このことから両者とも e 類に属するものと思われる。

近江町西円寺遺跡は天の川右岸に立地し、終末期の環濠集落とともに同時期の前方後円形周溝墓が検出されている⁽⁷⁾。現在までにはその周溝墓の周辺から同時期の墓は見つかっていない。そのため他の墓の存在を予想しても、この周溝墓が単独で占地している事は間違いないであろう。しかも主体部は墳丘がかなり削平をうけているものの中央北よりに 1 基検出されている。その規模・主体部のあり方等から見て特定個人墓の様相を示すと思われるため、g1 類に属するであろう。

4. 各類型が示す社会様相とその変遷

前項・前々項において弥生時代墓地の類型と湖北地方の様相を見てきたわけであるが、本項では各類型が示す社会段階を山陰地方の分析をもとに明示し、それをもとに湖北地方の社会変質過程を大まかながら検討してみたい。

- a 類 同時期における複数の墓群から見られないという事は、墓群を 1 つの最小限生活単位と考えれば血縁的紐帯に基づく集団の墓地であり、等質的社会段階の墓地と言えるであろう。
- b 類 a 類の中からその集団の指導者つまり血縁的集団における家長が創出され、一般集団構成員と区別されはじめた社会段階の墓地であり、非等質社会への第一段階と言える。
- c 類 同時期における複数の墓群が見られる事から、血縁的集団が数集団結合した地縁的結合に基づく集団の墓地と言える。これまでの血縁的集団より今後の集落の基礎となる地縁的集落が萌芽した段階であり、墓地はいわゆる集落内共同墓地の形態をとる。当然 b 類に見られるように集団内の指導者の人物が存在する。
- d 類 地縁的集団内の特定人物とその近親者が c 類の様に一般構成員から突出しきっていない段階から完全に突出して一般構成員と性格を異にし始める段階の社会を示す。つまり階層性が明確になった段階である。
- e 類 d1・d2 類と c 類の中間的社會様相示す墓地である。未だ共同墓地の範疇に入りうる。
- f 類 特定人物とその近親者の中から特定人物とその配偶者および子か孫がさらに抽出され、特定人物とその近親者のグループ内にも階層差が現れる段階の社会を示す。
- g 類 集落および集落共同体やその連合体の長が他の一般構成員を完全におさえて突出した力を持つ様になり、特定個人墓を営む段階で、1 人の支配者のために他の者が使役される非等質的社会の初現的段階を示す。

以上の様に各類型がどのような社会様相を示すかを述べたわけであるが、墓地様相の変遷と社会様相の発展、いわば等質的社会から非等質的社会への変遷の過程は軌を一にするものとして理解できるであろう。そしてその変遷の中には3つの画期が見られる。第1の画期はb類の出現である。すなわち血縁的集団における家長が創出され一般構成員と区別され始めた段階と言える。第2の画期はd類の出現である。これは特定人物とその近親者が一般構成員から完全に突出し、非等質社会が明確化し始める段階と言える。第3の画期はg類の出現であり、階級社会の完成が見られる段階である。

以上の点をふまえて湖北地方の社会変質過程を極大まかに検討してみたい。先述のとおり湖北地方では前期中葉より集落遺跡の存在が知られている。集落が存在するという事は当然墓地も存在する。中期に見られる方形周溝墓も単独もしくは少数から墓域を形成するのではなく、一般的な在り方（群在する）であると予想出来る。つまり前期～中期の間にa及びb段階からc段階へと変化し、長浜平野及びそれ以南では後期にc・e段階を経て終末期にg段階に至る。長浜平野以北では後期にc・e段階に至るが、終末期に様相ははっきりしないものの獣帯鏡・鉄剣等の副葬品が不時発見された虎姫町三川丸山古墳が知られており、やはり南部と同様終末期にg段階に至るのであろう。いづれも前期～後期の間にゆるやかな社会変遷をたどれるが、終末期に一気に特定個人と一般構成員との間に階層差が広がったものと見られる。特に注意すべき事は方形周溝墓の在り方から一般墓地から立地を全く異にするd類・f類の存在が考えられない点であろう。平野部で造墓する場合の特徴とも考えられるが、大阪府瓜生堂遺跡例の様に有力家族のみ方形周溝墓を造り、他の一般構成員はそれと溝を隔てて土壇墓群を営む事があるため、一概には言えないであろう。むしろd・f類を経ずにe段階より急激にg類に変化するのが1つの特徴と言えるであろう。

5. おわりに

以上の様に湖北地方の弥生時代の社会変質過程の復元を試みたわけであるが、やはり資料数の不足は否めない。そのため、十分な分析を加える事は出来なかったため、今後の好資料の増加を待ちたい。そしてこの方法の有効性を示すためにも比較的弥生時代全期にわたってその様相の把握出来る山陰地方の分析を稿を改めて行ないたい。末記になるが本稿作成にあたって当協会田中勝弘氏・近江町教育委員会宮崎幹也氏をはじめとする多くの方々に多数御教示いただいた。記して謝意を表する次第である。

注

- (1) 高倉洋彰「古墳を通してみた弥生時代社会の発展過程」(『考古学研究』20-2 1973年)
 〃 「墓制からみた社会環境の変化」(『歴史公論』28 雄山閣 1978年)
- (2) 注(1)と同じ
- (3) 注(1)と同じ
- (4) 近藤義郎『前方後円墳の時代』(岩波書店 1983年)

- (5) 大塚初重「原目山墳墓群」(『福井県史』資料編13 1981年)
- (6) 田中勝弘「遺構の変遷」(『北陸自動車動関連遺跡発掘調査報告書X I -伊香郡余呉町桜内遺跡-』1989年 滋賀県教育委員会(財)滋賀県文化財保護協会)
- (7) 宮崎幹也氏の御好意により実見させていただいた。他の遺跡名の出ているものは全て調査報告書による。(紙数の関係上割愛した)

参考文献

- ・谷口義介・宮成良佐 『北近江の遺跡』(サンブライツ出版 1986年)
- ・近藤義郎『前方後円墳の時代』(岩波書店 1983年)
- ・都出比呂志「墳墓」(『岩波講座日本考古学』4 岩波書店 1986年)
- ・白石太一郎「考古学よりみた日本の墓地」(『墓地』日本文化の探求 社会思想社 1975年)等多数

編集後記

本年度は協会設立20周年。これに伴う展示会や記念誌の発行等色々な事業を実施した。本号も20周年を祝う意味で、職員全員の投稿を呼びかけたところ、ほぼ全員の27名の参加を得、発刊することができた。紀要の充実はみんなの頑張りによるところが大で、次号以降も編集者を悩ませるほどの投稿を期待したい。

平成2年12月

紀 要 第 4 号

編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印 刷 宮川印刷株式会社
大津市富士見台3番18号
Tel(0775)33-1241